

母校創立百周年記念式典

二〇二〇年十一月十八日 於 土佐校体育館

式典は、瀧田高知県知事(56回生)をはじめ多数の来賓を迎え、肅々と執り行われた。創立100年に思いを馳せ、更なる飛躍の歴史を刻むことを誓い、力強くその一步を踏み出した。

開式の辞

理事長 傍士銑太(49回生)

土佐中学校が、大正九年(一九二〇年)川崎家・宇田家により設立されて以来、幾多の困難や試練を乗り越えて今日がありますのは、教職員・振興会など関係各位の熱意や努力、誇り高い伝統を築き育てられた二万人を超す同窓の温かいご支援やご厚情、さらに潮江地区、高知市、高知県という地元地域の皆様のご協力の賜であります。その歴史を思い起こし、深い感謝と敬意を表します。



式辞

学校長 小村 彰(49回生)

一九二〇年四月に開校された旧制土佐中学校は、一九二二年十一月一八日、校舎の落成記念式典が開催され本格的に動きはじめました。授業開始から百年の今年、その十一月一八日に、県内外から多くのご来賓の皆さまのご臨席を賜り、全校生徒出席のもと、百周年記念式典を開催できますことは、誠に有り難く胸に迫るものがあります。

開校以来百年、四代の校舎建築には、創立家をはじめ、県・市当局、保護者、卒業生から多大の財政的援助をいただきました。厚く感謝申し上げます。また百年にわたって同じこの筆山の麓で存続できているのは、地元の皆さまの温かいご支援があつてのことと、改めて御礼申し上げます。

多くの方に支えられて今日の本校があります。創立者川崎幾三郎・宇田友四郎両氏が掲げた「人材の育成」という建学の精神は、四代校長の曾我部清澄先生によって、学問・礼節・スポーツを柱に社会に貢献する人材を育成するとまとめられました。この知・徳・体のバランスのとれた人格の形成は広く教育の理想です。その中で土佐の土佐らしさ

とは何か。それは初代三根圓次郎校長時代から重んじられてきた自主的自発的に物事に取組むことであると確信しています。そうした自主性の尊重は、自由な校風、換言すれば各自の個性的なあり方、多様性が保障されることに通じます。この校風の中で培われた、自分と異なる他者を認め、まわりの人と協力・協働する姿勢を基盤に、各界で活躍する多くの卒業生を生み出しています。その中には、卒業生有志の方が百周年を記念して出版した土佐人物伝に取り上げられるような、著名な方もたくさんいます。一方、世に知られなくとも、それぞれの場で、周りの人々の支えになつている方もたくさんいます。私はそのことを周りを照らす人と表現していますが、現在の生徒の皆さんにも、それぞれの場でその場を照らす人になつてほしいと願っています。

それぞれの場を照らすために欠かさないことは、ひとりひとりの人間のかけがえのなさを大切に思う思いをもちつつ、違いの中に共通性を見いだす知性の力です。学問を重んじるとは、自分にとって不都合なものであつても、真理は真理として尊重する態度です。土佐に学ぶ皆さんには知を求め続け、その力を培うことによつて英語でいう enlight、啓蒙と訳されますが、文字通りその場を照ら

「百年の計は、人づくりにあり」と申します。学校を一本の大木に例えれば、土佐に関わる人たちは、木を支える根です。根が失われたら、いつか木は倒れてしまいます。その木が、いつまでも大きく健やかに育つよう、みんなで愛情を込めて世話をしてきました。そこに咲く生徒たちは、一人一人個性あふれる花となり、土佐を豊かに彩っています。この百年、土佐の『根っこ』はしっかりと張り、お互いに支え支えられ生きてきました。新型コロナウイルス禍の中、このごく普通の日常に支えられていることを改めて実感します。

日本画伯の東山魁夷の代表作である「道」をご存じでしょうか。白っぽく、ただ真つ直ぐな道だけが、遠くに伸びているシンプルな構図です。鑑賞する人にとつて、これまでの歩みを顧みたり、これからの進路を鼓舞されたり、さまざまに感慨がわいてきます。

この画のように、土佐は、これからの若者たちにいろいろな道を示し、迷ったときに必ずこの大木にたどり着き、胸を若々しく高鳴らせる道標になるでしょう。次の百年も、焦らず、競わず、銜わず、長期的な視野に立ち、いつまでも誇りを抱き愛され続ける学校になリますよう祈っております。

す、無知の暗闇に光を点す人であつてほしいと願っています。それは様々な人に助けられ支えられてこそ可能になります。そのことを自覚し、そうした方々に、さらに広く、校歌にも歌われている自然の恵みも含めて、支えてくれていたものに感謝する心も忘れないでほしい。第三代の大嶋光次校長はそれを報恩感謝という言葉で端的に表現しました。百周年記念歌にも盛り込まれたこの言葉は、これからも大切にしていきたいと思います。

恵まれてあることを他者のために活かす。百周年を迎え、そのことを生徒・教職員が胸に刻み、新しい百年に、毎日を充実させつつ、未来に向かって歩んでいくことを誓い、式辞といたします。

式辞

生徒代表 大谷 航(高三)

今、世界は大きな転換点にきています。科学技術の発達により、「もはや何が真実かわからない」とまで言われる時代が到来しました。それに加え、私たちは未曾有のパンデミックを経験し、先の読めない時代を生きています。このような時代にあつて、世界の人々の不安は募り、グローバルイズムへのためらいから、現在の人類社会の在り方が問い直されつつあります。私たちの先人が築きあげてきた世界の枠組みが、今変わろうとしているのです。

この不確実性の時代にあつて、これか

ら私たちは何をもちて社会に貢献するべきでしょうか。私は、報恩感謝の理念の下、文武両道を達成することだと信じています。どのような時代にあつても、礼節を尊び、心身を鍛え、勉学に励むこと。土佐校の原点ともいふべきこの理念に立ち返ることで、社会に貢献する力が身につくでしょう。そして、私たちはこれからの時代を力強く生き抜くことを誓います。

祝辞



高知県知事 濱田省司(56回生)

「文武両道」をモットーに、個性と自主性を重んじる校風の中、有意義な学生生活を過ごされた卒業生は、開校から100年の間に2万2千人を超え、県内はもとより国内、また国際社会の様々な分野で活躍をされています。

本県の将来を担う子どもたちの教育の充実が、県政の重要な課題で、県としても、子どもたちが自らの夢や志に向かつて未来を切り拓くことができるよう、全力で取り組んでおり、土佐校におかれましては、これまで以上に本県の教育界をリードしてくださることと期待をしております。

新型コロナウイルスの影響で、かつては想像したことのない今日の日常の中、接触機会の削減やリモート化のニーズが高まり、私たちはデジタル化などを通じて社会の構造変化への対応を求められて

いる一方、このような時だからこそ、人と人とのつながりが大切になります。土佐校には、他者を思いやり、社会のそれぞれに光をともし、周囲の人々を強く導くことができる人材を育てていただくことを心より願っています。

高知市長 岡崎誠也

本校が創立された1920年の二年前に第一次世界大戦が終わっていますが、その歴史に残るスペイン風邪の世界的な拡大がありました。その100年後の今、私たちはコロナの渦中にあり、100年前と重なる印象を抱いています。

この一世紀を支えた同窓生は、本校の発展に寄与し、経済・政界・産業界ほか様々な分野において、日本のみならず世界中で活躍されています。

今日から創立101年目がスタートするわけですが、在校生の皆さんはこの素晴らしい伝統を引き継いで、新しい21世紀を、次の百年を担って頂くことになりました。それぞれの夢、思い、可能性と格闘しながら、更なる活躍を期待し、また学校関係者の活躍をお祈りしております。

振興会会長 濱田幸広(69回生)

土佐高等学校土佐中学校振興会は1946年4月に発足しました。以来74年本校教育の振興を目的として活動しております。

在校生の皆さんにおいては、百年もの間、多くの先輩の活躍があつてこそ今があります。先達に対しては報恩感謝の心をもつて、また、それに続くように

仲間とともに磨き合い、ゆくゆくは後進に向けては新たな道を示し、あらゆる分野での活躍はもちろんのことですが、特に一人でも多くの皆さんが、高知で起業し世界に向けて活躍していくことを切に願つてやみません。

振興会は、同窓会とも連携し、その目的を追求すべく、先生方と手を取り合つて、土佐での教育環境をより良い方向に向けていき、子供たちの成長に還元出来ればと思います。

同窓会会長 岡内紀雄(34回生)

私ごとで恐縮ですが、年齢にならんとするこの年に、母校の創立100周年に巡り合えたことは、無上のよろこびであります。

オンカン(中山先生)、カマス(吉本先生)、タコ(片岡先生)、カエル(永野先生)を始め多くの先生方の楽しかった授業、山陰・北九州への修学旅行、運動会でのヤグラづくり等々、高校時代の思い出が走馬灯のように浮かんできます。

私は、土佐校を卒業したことを誇りに、今まで活動してきました。土佐校で青春時代を過ごし、無二の親友を得ることができたことを、本当に良かったと思つていますし、これからも報恩感謝の心を忘れることなく、生きていきたいと思つています。

土佐校が、その輝きをいつまでも失うことなく、各分野で出色の活躍をする同窓生を、数多く輩出することを心から祈念いたします。

—百周年記念講演会—

演題『支えること、支えられること』

村木厚子（49回生）

49回生の村木です。卒業してから五十年近く経とうとしています。そのうち三十七年、役所に勤めました。「産・学・官」といいますが、ずっと「官」の世界におりましたので、こんどは新しいことをしたいと思います、「産」と「学」に身を置いていきます。

私の学校時代、公務員生活、ある刑事事件に巻き込まれた話、これからの社会で何が大事か—そんなテーマで、学んできた経験をお話しします。

「おはよう」と言えない少女

小さい頃はものすごい泣き虫で人見知り、対人恐怖症の子でした。初めて受けた幼稚園の入園試験で泣きわめき、不合格となりました。人生初めての失敗です。

そんな私ですが、小学四年生の時、「土佐中に入りたいたい」と思いました。服装、髪型が自由な学校に憧れ、親に「塾に行かしてくれん」と頼みました。

今思えば、私が人生で最初の「目標」を持った瞬間でした。

希望叶い、入学できました。前から四番目のちっちゃな子でした。内向的で対人恐怖は中学に入っても治らず、席

替えがあっても、隣席の男の子に「おはよう」と言えません。

ある時、好きな人と座つていいよ、という席替えがありました。私の隣は空席のまま。誰も座つてくれません。しばらくして、男の子が座つてくれました。小村君でした。多分、学級委員長として、責任を取つてくれたのでしょう。（拍手、笑い）

本当に私、いい人が母校の先生になり、校長先生になってくれたな、と思つてます。

中学二年の時、何と父親が失業しました。土佐での勉強は無理だから、公立に替わろうか、と相談しました。父は「何としてでも行かせてやるから頑張れ」と言ってくれました。

それから、授業料を稼ぐため、春、夏の休みにはアルバイトをしてお金を貯めました。高校になると奨学金をもらいました。友達や先生たちが色々手助けしてくれたこと、忘れられません。でも、部活や修学旅行は諦めました。

そういう事情でしたから、大学進学は無理だろうと思つていました。そのうち、父が資格を取って自営業を始め、地元大学なら、と言ってくれたので、高知大に進学できました。勉強を続け



プロフィール

本校49回生。高知大から国家公務員上級試験に合格、78年労働省入り。09年厚生労働省局長在職時、郵便不正事件を巡って逮捕・起訴されるも、一貫して無罪を主張。164日間拘留されたが、検察の証拠改竄も露見、無罪判決を勝ちとる。復職後、厚労事務次官で退官。大学で教鞭を執る傍ら、生きづらさを抱える少女や若い女性の支援活動等に携わる。

させてくれた父親にはとても感謝しています。父も同じように祖父に勉強を続けさせてもらったそうです。

「誰かのため何かをしようとすることに繋がっていく」。皆さんが今、土佐にいることは、貴重なチャンス。大人になって、いい経験だったなと思う瞬間があったら、こんどは誰かがチャンスを掴むために、ちよつと力を貸してあげてください。

自身が価値観持ち、成長確かめよう

どんな職業に就こうか、そのためどんな学部を選ぶほうか、皆さん考えていると思います。私の場合、目標は「低い」というか、自分の力で長く食べていける仕事、という意味で公務員を選びました（労働省⇨現厚生労働省、昭和53年）。

最初の職場（職業安定局）では、「お茶くみ」から仕事を始めました。今ならハラスメントだ、男女差別だ、となるでしょうが、男女雇用機会均等法など

ない時代です。いわゆるキャリアの女性にもお茶くみややらせるべきか、やらせるべきでないか、激論があったそうで、結局、「させろ」ということになったようです。失敗も沢山しました。下つ端の私は国会の答弁資料作成では清書係です。ある時「七ヶ年計画」を「七〇年計画」と読み違えてしまいました。夜になってハツと気がつき、慌てて全資料差し替えという事件、をやらされました。もし、そのまま読まれていたら大臣のクビが飛んだかもしれません。今思い出しても冷汗が出ます。

それでも、少しずつ仕事が出来るようになり、成長していききました。

「自分が分かっていること」と、それを「他人に説明できること」とはレベルが違う。やっている仕事をほかの人にきちんと説明できるようにすると、自分が成長できます。

受験勉強、入試、入社試験：他人と競い、比べられます。大切なことは自身の中に価値観を持ち、「自分にとつての成長」を確かめられることではないでしょうか。

このように仕事をして、結婚をして、二十九歳と三十五歳の時、子供を授かりました。

公務員の経験から、皆さんにアドバイスしたいことがあります。

「新しい仕事のチャンスをもたらしたら引き受けよ」、「責任ある仕事を頼まれたら引き受けよ」です。階段を一段上るといつことは、見えなかった景色が見えるようになることを意味します。階段を上がつくれ、と言われたら、ぜひ、



チャレンジしてください。

泣き虫で内向的だった私は、このように四十歳にして、営業職のバリバリに変身しました。仕事を選ぶときは、考えて、迷って、最後は「エイ、ヤー」です！

もう一つ、「前半は川下り、後半は山登り」です。始めはボートが転覆しないようオールを操って流れに乗る。だんだん自分のこと、やっている仕事のことが見えてきたら、登りたい山とルートを決めて、山登りに切り替えてください。

郵便事件、 「誰かのため」は強い支え

こうして、比較的順調に……と思っていたら、事件がやってきました。若い皆さん

んは知らないと思いますが、もう、十一年が経ちました。(平成21年、郵便不正事件)

二七の障害者団体が、障害者用の郵便割引制度を悪用して、何十億というお金を儲けた事件。厚労省が発行した証明書が悪用されたのですが、ある係長が単独で、手続きをスキップして判子を押してしまった、というのが事案の全容です。

ところが、大阪地検特捜部の描いたストーリーは、「ある国会議員がその二七団体を応援していて」、「役所に頼んで」、「それを聞いた私の上司が私に命令し」、「私とその係長に命令し」、「証明書を作らせた」というものでした。

最初、特捜部から呼び出しがあったとき、これじゃないと説明できると思っていました。私は関わっていません、と一生懸命説明しましたが、逮捕する、と言われその日夕方には、拘留所に入れられました。着の身着のまま、家族にも会うことが出来ません。

公務員になって三十年、局長でした。「人を支える仕事をしている」と、どこかで思っていました。しかし、事件に遭遇し、いかに多くの人に支えられているか、痛感しました。拘留百六十四日、私にとって本当に良い勉強でした。

起訴有罪率99%というわが国の裁判。「やってない」と最後まで言い続けるのは、結構タフでした。担当検事も「僕の仕事はあなたの供述を変えさせることです」と言い切る。無罪判決まで一年三ヶ月かかりました。

最後まで頑張れたのは何だったんだろう

う、と考えました。一つは「家族や仲間を支え」。もう一つは「プロの支え」。接見の弁護士がアクリル板の向こうで「真実を貫け」の紙をかざしました。下に同僚、友人：沢山の人の名前が小さく書かれていました。ドラマのワン・シーンのようでした。

娘のためにも頑張らなきゃあと思いました。「誰かのため、は強い」です。

無罪判決が出た半年後、東日本震災が起きました。職場復帰していた私は大臣のお付きで福島避難所を訪れました。テレビで視て知っていた被災者の方々が「良かったね村木さん！頑張つてね！」と逆に励ましてくれました。福島の人たちは強くて優しい。人は支えられるだけでは元氣になれない。誰かを支えることで自分も元氣になります。

逮捕され、人相の悪い私の顔が新聞、テレビにいっぱい出る。裁判はどうなるか分からない。神ならぬ裁判官が運命を決めようとしている。どうやって自分を失わずに生きていくか、悩んでいたとき、こんな言葉に出会い、とても勇気をもらいました。

「生きていたら多くのことが降りかかってくるわ。それをどういうかたちで自分の人生に加えるかはあなた次第」(推理作家サラ・パレツキー「サマー・タイム・ブルース」)

異質なもの同士、 繋がることの大切さ

さて、皆さんはこれから「変化の速い時代」を生きてゆきます。

「今ほど変化の速い時代は過去になかった。今後、今ほど変化が遅い時代も二度と来ないだろう」。カナダの首相、ジャスティン・トルドーの言葉です。名言だと思います。

そんな変化する時代に何が必要か、どう生きていくべきか。

二つのことが大切だと思います。「学び続ける」と「異なるものと繋がる」です。

人生百年時代。学んだ知識はあつという間に陳腐化する。この学校では、「学び続けるための基礎」を身につけてください。

OECDの人に言われました。日本はすごくポテンシャルは高い。日本人は、科学技術や個人の能力は高い。けれど、「違うものと繋がる力」が弱い。海外との繋がり、役所と民間、研究機関と企業、新しい人を招き入れる力が弱く、内弁慶です。

内弁慶だった私が言うのも恥ずかしいのですが、互いに繋がりあうことが大切。新しいものと繋がる勇気を持ちましょう。

AKB48で「どの子が伸びるか分かりませんか」という問いに対するマネージメント会社社長の答です。

「やりたいこと、やらなければならぬこと、できること、のバランスが取れた子」——この三つを大きく膨らませてください。

ご静聴ありがとうございました。(拍手)

川崎幾三郎さんのご功績

会長 岡内紀雄（34回生）



新校舎建築調印（左端ご子息康正氏・42回生、左から3人目幾三郎氏）

大正9年（1920年）に、宇田氏とともに私財を投じて、土佐中・高等学校の前進である私立土佐中学校を創立した川崎氏の跡を継がれた川崎幾三郎さんは、大正6年（1917年）のお生まれで、家業の不二電気工芸・不二興産・川崎林産工業などの社長・会長として社業の発展に尽力されました。

昭和23年（1948年）3月に川崎宇田財団法人（現学校法人土佐高等学校）の第5代理事長に就任、同27年1月までの4年間理事長を務められました。この間、戦災によるブラックからの校舎建築事業が進められました。また、同26年3月には法人名称を川崎宇田学校法人に改めています。

昭和32年（1957年）4月から再度理事長（第7代）になり、同50年4月までの18年間理事長を務められました。この二度目の理事長在任中は、創立50周年の記念事業として校舎改築事業を推進されました。また、同47年4月には法人名称を学校法人土佐高等学校に改めています。

そして、平成17年（2005年）3月には三度目の理事長（第9代）に就任され、南海トラフ大地震を見据えた新校舎の建築を決断、その事業の責任者として、重大な責務を果たされました。平成19年9月に退任されてからは、お体の状態もすぐれず、完成した新校舎をご覧になることもないまま、同20年

（2008年）9月1日にご逝去されました。

理事長を三度にわたって務められ、そのご在任中いずれも校舎改築という大事業を推進され、土佐校の発展の礎を築かれたご功績は、文字に表わすことができない程、偉大なものであったと、改めて感動を覚えざるを得ません。川崎幾三郎さんとご子息の康正さん（42回生、学校法人土佐高等学校理事、同窓会副会長を歴任、2016年2月23日ご逝去）、ご両人のお人柄とご功績をしのび、心からご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。



新校舎イメージの説明を受ける幾三郎氏（左端）

「創立百年史」紹介

教頭 岡松 宏明 (51回生)



「創立百年史」制作の過程

本校は過去3回記念誌を作成したが、その中で開校からの歩みを通史として執筆した文章は40周年記念誌の河野伴香先生による「本校四十年の歩み」のみであった。今回の百年史は本格的な学校史となることを目標に作業を開始した。

高等学校の学校史としては、麻布学園と神戸高校のものが高い評価を受けている。一方で独自の地域事情の中で発展してきた地方私学の記録は今ままであまり注目されてこなかっただけに、本書は学校教育の研究者にとっても貴重なものとなるであろう。すでに調査の一部は湯田先生により学会発表されている。そういった意味で発刊後は麻布、神戸高校2誌に匹敵する評価を得ることを期待している。

総ページ数は930ページ余り、核となる「通史」の執筆は、当時神戸大学在職の湯田卓史先生（現宮崎大学教育学部准教授）に依頼した。先生は神戸大学の百年史をはじめとする学校史・自治体史の執筆と編集に豊富な実績を持つ方であり、三浦浩三元教頭先生と

の縁で全面的な協力を頂けることとなった。

始動

三浦先生を長とする6名の教員による校内委員会を設け、2011年9月10日、第1回準備委員会を開催した。学校史はその公共性を考え複数の執筆者が必要との湯田先生のアドバイスから、教育・文化方面を専門とする気鋭の若手研究者の協力を得て執筆チームが立ち上がった。

資料収集

80周年記念誌編纂時に多くの資料を発掘・整理していたが、2014年に改めて卒業生や学校関係者に提供を依頼、多くの同窓生から貴重な記録や品々の提供があった。感謝に堪えない。

アンケートの実施

①2017年11月に高2生とその保護者を対象にアンケートを実施し「通史」にまとめた。②同年12月に卒業生を1,000名無作為抽出しアンケートを実施した。回答の一部は「回顧展望」で紹介した。

執筆編集

2017年度に新たに校内新委員を定め、資料の収集、写真の選定、原稿の作成等の編集作業を本格化した。

「創立百年史」内容

「第一部 通史」

本書の中核となる部分。490ページで本校の姿を詳細に記述した。創立から旧制中時代を経て空襲による校舎焼失そして確かな地盤を築いた昭和30年代頃まで、ダイナミックな時代のうねりの中で苦闘しつつも着実に発展してきた学校の姿を知ることができる。また、昭和40年代にかけては『向陽新聞』の記事を重点的に取り上げている。生徒側の目線で見た学校の姿が示されており他書には見られないユニークなものとなっている。

現在の学校の姿は前記の生徒・保護者に対する広範なアンケートをもとに明らかにしている。次回の記念誌で同様の取り組みを行い比較分析していけば、より価値の高いものとなるだろう。

「第二部 年表―100年の記憶―」

主な出来事を年度ごとにまとめた。単なる事実の記載ではなく、様々な資料を挿入し本校関係の読者の心に深く届く内容を心がけた。

「第三部 資料」

学校統計、中高入試、修学旅行、現校舎建築、部活動、旧・現職員名簿などの資料を収集し、調査・整理に多く

の時間をかけてまとめた。

「第四部 回顧展望」

多様な視点で本校の姿を浮かび上がらせている。校務分掌部長談話、大学進路指導・図書館活動、振興会・同窓会活動、卒業生アンケート、現在の部活動紹介等である。とりわけ図書部による過去の録音・録画テープのデジタル保存とリスト作成、学校所蔵の美術作品の調査は百年史作業の中でも価値の高いものであった。

最後に本校の将来を次世代に託す意味で、2019年度高校卒業式答辞と2020年度中学入式宣誓を全文記録した。いずれも素晴らしい文章である。完成は2020年11月予定、書籍に加えてCD版（PDF形式、吹奏楽部・音楽部・ギター部による学校歌5曲の演奏も収録）を同時に作成している。





お祝いのお花をバックに、晴れやかなオープニングセレモニー



新たな100年に向けて、校長先生の抱負が掲載された学校案内を掲示しました。



生徒手帳と、その前身、生徒必携手前は制服の金ボタン



生徒手帳などに「土佐高」を刻印した器具。記念にと、パンフレットに押す方も。



校章の変遷



講堂兼体育館落成記念品の手ぬぐい



100年前にタイムトリップ。歴史へのプロローグです。



修学旅行のしおり。いろんな情報が詰め込まれていて、厚い厚い。荷物が重くなってたいへんでした。



過去の定期考査・入試問題がすべて展示されました。配布用にとずらりと並んだ中から、自分が受けた年の入試問題を見つけて、嬉しそうに持ち帰る卒業生も!

今が輝き、未来を拓く。

2020年11月18日の創立記念日を前に、高知市文化プラザが開催されました。11月11日～15日という短い会期にもかかわらず、のべ3000名を超える来場者が、百年の歴史を紡ぐ展示を愉しみました。中には、1日では見切れないと、連日足を運ぶ資料も多く展示されました。

「コロナの感染予防については十分注意を払わなければいけないけれども、今回の展示品は、触れて、ページをめくって見ていただきたい」、小村校長先生のその思いを反映したレイアウトは、多くの卒業生や在校生、保護者の皆さまや、一般の方々にも喜んでいただけたと思います。

2000㎡を超える会場狭しとレイアウトした展示の数々をみてください。

〈ナビゲーター：上久保(久松)由佳 / 58回生 写真提供：タカハシ写真館 高橋直也 / 82回生〉



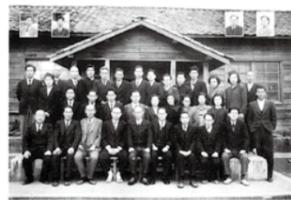
教室再現コーナー。教卓からは広田直吉先生の英語講義が流れています。貴重な音源です。



圧巻の百年大年表。28mの壁2面にずらりと掲示しました。こちらの面は、1920年～1999年。



黒板は、来場者の皆さんの落書きで埋め尽くされました。黒板横には暦年の進学実績と向陽祭ボクスター今昔。黒板上は吉本泰喜先生の書「報恩感謝」。



百年展に寄せて50名の卒業生が寄せてくれたメッセージと懐かしい恩師のお写真。

土佐校百年展

かるぽーと7階のすべての展示場を貸切り、「土佐校百年展」が開幕しました。のべ3000名を超える来場者が、百年の歴史を紡ぐ展示を愉しみました。中には、1日では見切れないと、連日足を運ぶ資料も多く展示されました。

「コロナの感染予防については十分注意を払わなければいけないけれども、今回の展示品は、触れて、ページをめくって見ていただきたい」、小村校長先生のその思いを反映したレイアウトは、多くの卒業生や在校生、保護者の皆さまや、一般の方々にも喜んでいただけたと思います。

2000㎡を超える会場狭しとレイアウトした展示の数々をみてください。

〈ナビゲーター：上久保(久松)由佳 / 58回生 写真提供：タカハシ写真館 高橋直也 / 82回生〉



かるぽーとに運動会のやぐらを再現しました。天井高が足りず、少しミニチュアサイズ(全高5.8m)ですが、往時をしのんで記念撮影をする方多数。やぐらキャラ「報恩感謝くん」はフィギュアイラストレーターのデハラユキノリ氏(68回生)デザイン。消毒薬の口から白い煙を出したいのは土佐校生の性。背景の紅蓮華は書道部の作品。



校舎の変遷と現在の校舎模型。初代校舎の見取り図が残っていました。曾我部清澄校長の生い立ちの記全文は読み応え抜群。その横は男女共学になった年の4月、初めて女子の名前が登場したときの辞令簿。台の上には向陽新聞が展示されています。



土曜日曜はステージで文化部の成果発表がありました。フィナーレは吹奏楽部・音楽部(弦・合唱)合同で百周年記念歌の演奏。大きな感動を呼びました。



文武両道、土佐校の真骨頂です。運動部・文化部の過去から現在までの素晴らしい成果が展示されました。



漫画同好会によるウエルカムボード



今回プロにお願いしたやぐら設営。企画段階では、同窓の皆さんと協力一致奮って作業するつもりでした。



コロナ対策の受付設営。あらゆる資料が手に取って見られる展示会でした。消毒薬の設置17カ所。皆さまのご協力に感謝です。

エレベーターの扉が開くたびに、受付はてんやわんや。検温・手指消毒・撮影禁止エリアの説明と、大忙しです。



左は木造校舎正面玄関に掲げられていた校章。右奥は奉還箱。御真影(天皇・皇后の写真)は戦後県に移譲、教育勅語などは保存。背負って避難できるつくりです。右手前に教育勅語を開いています。



▲陳列ケースに鎮座する歴史ある資料も。宿直日誌や職員会議事録です。



▲右は計算尺と試験時間を知らせる鐘。左は手前から、制帽、戦火で焼失した校舎の新築資金として振興会が募集した振興證券。



ガーナやニュージーランドとの交流の様子が展示された国際交流コーナー。

日本人初の国際赤十字の心のケア登録専門家

森光玲雄（73回生）



所属
 諏訪赤十字病院臨床心理課長 兼 国際赤十字・赤新月社連盟心理社会センター（コペンハーゲン）心のケア登録専門家



プロフィール詳細はこちら▶

体験に導かれて

困難に直面している人たちに寄り添う仕事をしたい。そんな思いから赤十字の人道支援活動に飛び込み、国内外の災害・紛争の現場で「緊急時の心のケア」に携わってきました。

きっかけはアメリカ留学中に経験した交通事故と9・11同時多発テロの体験です。異国で突然圧倒的な出来事に遭遇し、大切な人を失うという体験もありました。でもその中で、現地の人や友人などに支えられ救われた体験は、何事にも代えがたく今でも心に残っています。受け取った優しさや、その時のやるせなさを無駄にたくないという思いから、支援活動に引き寄せられていったのだと思います。

しかし、いざ災害時に心のケアを始めてみると現場は手さぐりの連続。日本でこの分野はまだ未発展で、しっ

かり学べる場もない現実を目の当たりにしました。初めて派遣された東日本大震災では、カウンセラーお断り、と言われ、心のケアが入って行くことの難しさを痛感しました。自ずと学びを海外に求めるように。国際赤十字には災害・紛争時の心のケアに取り組む専門家たちのネットワークがあり、各国の支援ノウハウがすでに蓄積されていたからです。そこでようやく知りたかった支援のセオリーや介入実例を知ることができ、それは自分の胸にすくとんと落ちる経験でした。それからは海外にアンテナを張ることを常に意識し、前のめりになつて外へへと自分も情報発信をする中で、国際赤十字に顔と名前を覚えてもらいました。また、海外での実践を通してさらに仲間も増え、2013年に日本人臨床心理士としては初めて国際赤

十字の心のケア専門家メンバーとして指名登録を受けました。

国内外の支援活動に奔走

これまで国内災害に加え、フィリピン、ネパール、ウクライナ等で災害・紛争の支援活動にあたってきました。緊急時以外では、国内の心のケア充実を目指し、日赤本社のアドバイザーとしてマニュアル改訂や支援者育成をお手伝いしています。現在は、遠隔で日赤の新型コロナ対策本部のアドバイザーをしながら、感染拡大による差別や社会の分断を防ぐためのガイドを作成したり、勤務する病院での医療者のメンタルヘルスサポートに取り組んでいます。将来的には日本に災害心理学をきちんとした形で普及させたいというのが願いです。災害や

トラウマは悪いもののように扱われがちですが、困難や逆境を通して人は逞しくなったり、優しくなったり、学びを得る力も持っています。人生は変化に富んでいていろんなことが降りかかってくると思いますが、現場から学んだ人のもつしなやかさをこれからも伝えていきたいと思っています。

役立った土佐校での学び

最後に、今振り返っても土佐高校ほど「個」が立っている場所はなかったと思います。自由な発想で好きなことに取り組む仲間たちに囲まれ、思いついたら行動に移してみるのが当たり前の環境だったからこそ、海外に出た時も気後れしなかったのだと思います。自ら課題を見つけて、一歩前に進んでいく自主性の精神は土佐校時代に培われた一番の学びです。



2015 ネパール地震支援（筆者：左端）



2013 フィリピン台風支援（筆者：中央）

〈新刊紹介〉

土佐中高一〇〇年人物伝 『筆山の麓』

筆山の麓から世界へ!!
自由な校風が育んだ多彩な人材!!

企画から2年を経た去る10月10日、『筆山の麓 土佐中高一〇〇年人物伝』刊行の運びとなった。お蔭様で各方面からご高評をいただき、高知市内金高堂では発売三週目に週間ランキング一位となった。またまった注文も相次いでいる。

「1920(大正9)年に土佐中が誕生して100年の歳月が流れた。この間、第一回卒業生以来すべての卒業生が、学舎は変われど場所は同じ筆山の麓から巣立っていった。母校は土佐からの人材育成を願っての設立であったが、はたしてどのような教育が行われ、

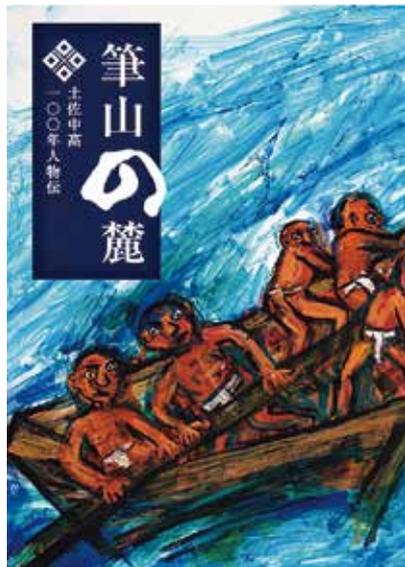
どのような人材が育ったのか、この人物伝によって実績を振り返ってみよう(刊行のことばより)。今から社会に漕ぎ出す若い諸君もぜひ読んでほしい。

なお、篤志家のご厚意で全在学生在本書が寄贈されたほか、剰余金が出れば母校に寄付される。(人物伝刊行委員会)



刊行委員のメンバー

高知県内主要書店、高知新聞販売所ほかで販売中。



表紙・田島征三(34回生)

【お問い合わせ】

高知新聞総合印刷 出版担当 (担当:山本)

TEL 088-855-0092

FAX 088-855-0093



ご希望の方はコチラから▶

■定価 1,200円(税込)+要別途送料

目次

夢を追ったあの人この人(刊行のことば)

土佐中高一〇〇年人物伝によせて

◆第一章 校長編 — 自由な校風樹立と廃墟からの再建 —

自由・自治の学び舎築いた初代校長

戦火から学園甦らせた三代校長

◆第二章 卒業生編Ⅰ(1~27回生) — 建学のいぶきを受けて —

ブラジルの大地に農民と生きた

殿様三郎を大衆商法に変身させる

世界で四三〇万人が学ぶ公文式教育を考案

「見たことのないものを創ろう!」

21世紀の教育をデザインした文部次官

被疑者の人権を守り続けた裁判官

日本を、自殺大国から救った精神科医

石文尚武の理想求め ひたぶる全力疾走

人物群像Ⅰ(28人の素描)

◆第三章 卒業生編Ⅱ(28~39回生) — 焼土に理想を掲げて —

石油の売り子、世紀の大合併を決断

演劇の魅力にとりつかれ70年

「バルタイ」で文壇に衝撃のデビュー

伝説の世界的ブランドコンサルタント

夢を持って苦勞に耐えられる

「土佐から京都へ」地震学者の回想

焼け跡で誕生した前衛アートの女神

生命力の根源を絵本に描く兄弟

お転婆が国際派弁護士として大使に

医は天職 人生を決めた土佐中進学

大震災で、絆に目覚めた銀行マン

電卓、個人持ち時代へ、答え一発!突破口

人物群像Ⅱ(46人の素描)

◆第四章 卒業生編Ⅲ(40~55回生) — 新しい世界へ挑む —

政官界にペンで挑むノンフィクション作家

能狂言の伝統を現代演劇につなぐ

心優しき百学連環の「怪物」

尺八を吹きつつ感染症と闘う

逆境を支えた母校の自由な校風と友情

ゲームソフトビジネスの革命児

怪奇小説から「死」と「性」主題へ

世界の宇宙物理学をリードする同級生

「毅然と生きる」日本人を描く

人物群像Ⅲ(38人の素描)

◆特集 政治家群像(大臣3人を含む国会議員7人と知事2人を紹介)

表紙のことば 田島征三/凡例/歴代校長/土佐中学を創った人々

校舎・施設の変遷/あとがき/参考文献/人名索引/筆者編集者紹介

刊行委員会
小村 彰 (49回生)

三根圓次郎

大嶋 光次

中沢源一郎 (1回生)

進藤 貞和 (3回生)

公文 公 (7回生)

高崎 元尚 (16回生)

宮地 貫一 (21回生)

下村 幸雄 (23回生)

大原健士郎 (24回生)

籠尾 良雄 (27回生)

泉谷 良彦 (29回生)

北村総一郎 (29回生)

倉橋由美子 (29回生)

秦 郷次郎 (31回生)

岡村 甫 (32回生)

尾池 和夫 (34回生)

合田佐和子 (34回生)

征三 征三 (34回生)

浅井 和子 (35回生)

中川 健 (35回生)

青木 章泰 (36回生)

羽方 将之 (38回生)

塩田 潮 (40回生)

黒鉄ヒロシ (41回生)

笠井 賢一 (42回生)

高山 宏 (42回生)

岸本 寿男 (47回生)

村木 厚子 (49回生)

武市 智行 (49回生)

坂東眞砂子 (51回生)

須藤 靖 (52回生)

門田 隆将 (53回生)

川村 静児、

●合格の状況●

Table with 4 columns: 国立大学, 現, 過, 計, 進学. Lists various national universities and their admission statistics.

Table with 4 columns: 私立大学, 現, 過, 計, 進学. Lists various private universities and their admission statistics.

Table with 4 columns: 私立大学, 現, 過, 計, 進学. Lists private universities including Shizuoka University and others.

Table with 4 columns: 公立大学, 現, 過, 計, 進学. Lists public universities and their admission statistics.

Table with 4 columns: 準大・海外大・その他, 現, 過, 計, 進学. Lists other types of institutions like short-term colleges and international universities.

Table with 4 columns: 私立大学, 現, 過, 計, 進学. Lists private universities including Aichi University and others.

2020年度大学入試総括



進路部長 藤岡優太 (58回生)

2020年度結果 ◆共通テストを翌年に控え、安全志向が強まる中、最後のセンター試験は難化しました。安全志向が一層強まるのではないかと。そんな心配が頭をよぎる2020年度入試でしたが、95回生にそんな心配は無用でした。生徒たちは一人一人がそれぞれの志望に向けた努力を重ね、安易な方向に走ることなく受験に立ち向かってくれました。昨年の総括でお伝えした通り、94回生の現役国立大学の合格数は134と共通次開始(昭和54年度入試)以来、連続方式でのい

わゆるダブル合格の存在した年度を除けば最多の数字であったのですが、95回生・現役は146とさらに躍進しました。私立大の合格数も371(昨年348)と増加。現役合格率は80%を超えました80.9%。また、難関大に関しても、東京大8名(現役4名)、京大9名(現役4名)、大阪大16名(現役9名)と見事な成果をあげ、国立公立大医学部医学科についても合格者29名(現役16名)と好成绩で、京都大1名(現役1名)、岡山大4名(現役3名)と難関医学部でも

◆改めこの一年を振り返って◆ 3月。例年なら、合格者の掲示で賑わう本校2階の掲示板ですが、この春は密を避けるため掲示を控えました。合格者掲示は合格を果した多くの先輩たちの姿を直に感じてもらえる場であり、在校生にとって大きな励みとなるものですが、今回掲示ができなかったことは、入試結果が好成績だっただけに大変残念です。

10月。96回生の共通テスト出願を終えた今、改めてこの一年を振り返ってみると、落ち着く間のない日々が続いているなと感じています。昨年夏から新入試に関する情報が五月雨式に発表されたし、英語成績提供システムID発行の準備がやっと完了したかと思いきや突然の民間試験活用見送りの発表。さらには共通テスト記述式の導入見送り。ひと息つく間もなく今度は新型コロナウイルスの問題。現在もコロナ対応での受験日程方式の変更が続いています。最後の最後まで注意を要する2021年度入試が本番を迎えます。

同窓会の歩み

本部

同窓会結成のきっかけは、初代三根圓次郎校長のご逝去とともに、母校の不振を憂える声が卒業生の間に届き、旧制土佐中学校卒業生が、心の故郷たる母校に思いを馳せるようになったことに始まる。そして、三根先生ご逝去の翌年1936年(昭和11年)青木勘校長を初代会長とする土佐中学校同窓会が発足。三根先生に対して報恩の二事業(記念像建設と追悼誌の発刊)を1939年(昭和14年)に計画した。

1945年(昭和20年)に大嶋光次氏が校長に就任し、同時に第2代同窓会会長となった。1955年(昭和30年)に会則を改正、会長は同窓生の中から選任することになった為、大嶋光次会長は退き曾我部清澄氏(1回生)が3代目の会長となった。1958年(昭和33年)の大嶋校長逝去のあと曾我部会長が校長となったため同窓会会長を辞任し、翌年8月2日に役員改選を行い、南政一郎氏(1回生)が4代目の会長となった。そして、5代米沢善左衛門氏(2回生)へと引き継がれ、同窓会活動の礎が築かれていった。

6代中島暁氏(10回生)は、当時発足していた各支部に同窓会旗を贈るなど、各支部活動を援助し、交流を促進した。1986年(昭和61年)には同窓会に「母校活性化委員会」をつくり、あらゆる角度から活性化への方策を検討し、理事・評議員会でも鋭い意見を

述べた。同年、学校法人土佐高等学校の理事に就任したが、校長としての曾我部・松浦両先生は別として、同窓理事第一号であった。

1990年(平成2年)に同窓会出版第一号として発刊した、52回生清谷知郎氏著「アルプス席の全力疾走」は、内外に大きな反響を呼び起こした。



2019 懇親会(9の会)

7代町田守正氏(16回生)は、1993年(平成5年)母校のための奨学金制度検討委員会(4回会議)の立ち上げや、振興会広報誌「向陽の空」創刊号作成に協力した。

8代岡村甫氏(32回生)は、本部会報誌「向陽」を刊行し、全国の卒業生に学校の近況や各支部の活動を広報、また母校創立100周年を見据え、学校のあるべき姿と活動方針を策定する「百年委員会」と教員の研修支援プログラム「TSSL委員会」を立ち上げるなどをして、学校・振興会との協力体制を培った。

9代池上武雄氏(28回生)は、会員名簿等のデジタルベース化を実施し、現在の会員情報管理システムの基礎を築いた。

10代宮地貫一氏(21回生)は、「ホームカミングデー総会」というこれまでになかった、若い世代を取り込む新しい形の同窓会活動を構築、また、新校舎の建設を強力に推進した。

11代現会長の岡内紀雄氏(34回生)は、新校舎建設(2009年(平成21年)竣工)にあたり、募金活動を率先して行い、また、本部の財政基盤として「同窓会運営協力金」の創設を提唱。そして、同窓会活動の命とも言える「会員名簿データベース」の管理方法を変更、より強固で安全なシステムの構築を推進し、現在に至っている。

今や同窓会会員は、2万2千名を超え、経済界、政界、官界、教育、文化、医療、研究、芸能界など、さまざまな分野で国内はもとより海外でも活躍しており、同窓生の結束力は極めて強く、他校を圧倒する絆を誇るに至っている。

同窓会名称の変遷

- 1936年(昭和11年) 土佐中学校同窓会
- 1955年(昭和30年) 土佐高等学校土佐中学校同窓会
- 1986年(昭和61年) 土佐中・高等学校同窓会

現在に至る

北海道支部

2004年6月窪田秀忠(38回生)、大崎博士(70回生)、有岡佐和(78回生)は「北海道支部設立準備会」参画の呼びかけを行い、同年11月13日設立準備会を開催。支部設立に賛同が得られ、会則および役員案を検討、本部へ報告。

2005年6月11日北海道支部設立総会を開催。池上武雄校長先生、同窓会本部の安岡範悦幹事長、他支部役員の方々などのご出席を得て、第6番目の支部(支部会員50余名)としてスタートした。この設立総会で支部長・田原哲士(37回生)、幹事長・窪田秀忠(38回生)、副幹事長・島村昭範(49回生)、事務局長・川竹大輔(63回生)、広報・先川信一郎(45回生)、有岡佐和(78回生)を選出。



2017 北海道支部総会

同窓会の歩み

関東支部

初代校長三根圓次郎先生は、東京に家庭があつて度々上京された。その都度、主に本郷三丁目近くの燕楽軒に卒業生が集まり、校長先生と酒を酌み交わし身辺の報告をしたのが、関東支部の始まりの様である。初代片岡支部長は、鉄道省のホープ的な存在で、よく後輩の面倒をみて関東支部の草創をリードされた。4代目北岡支部長（幹事長浅井伴泰30回生）は、1985年関東支部会則の制定、年会費2000円の徴収、更に関東支部機関紙「筆山」の創刊を行い、関東支部の発展の礎を築かれた。5代目宮地支部長（幹事長溝渕真清32回生、市川直介53回生）は、熱い土佐高愛のもと支部の組織化、はちきん会、若手の会等を発足させるなど、関東支部の発展を牽引した。その後、泉谷支部長、森支部長という日本を代表する企業人により、永久不滅の関東支部が構築された。



2018 関東支部総会

東海支部

支部創設の経緯（東海支部支部報わかしやち 創刊号より）
昭和30年代も終わる頃、10回生の生野さんを会長格に自然にグループができ、名古屋〜高知の航空便もまだない時代のこととて、遠い郷里を忍びながら、土佐酒に浸ったものでした。これが当支部のルーツではないかと思えます。それから、この地に住みついた私どもが世話役となつて徐々にメンバーの輪を広げ、任意加入の「名古屋土佐高くらぶ」を旗揚げしたのが、昭和45年のことでした。
その後、本部のご指導もあり「同窓会東海支部」としてあらためてスタートしたのが平成元年のことでした。（第2代支部長 28回生 松崎正雄）



2019 東海支部総会

関西支部

18回生北村且氏が1回生岡村弘氏から指名を受けて初代支部長に就任したのが、1980年。このうち毎年春先をめどに総会を開催。並行して「支部だより」を発刊することとなり「なんぶう」の名称で原則総会に合わせて毎年刊行。最新版は39号へと。
北村支部長が退任されたあとは2代目に28回生・岡村毅郎氏、3代目が29回生・永野元玄氏、4代目が42回生・川崎美榮子氏、5代目が45回生・田辺暁人氏、6代目が現在の47回生・玉井浩氏。
会員数は2000年ころには3,000名を超えた時期があつたが、現在は2,000名ほどである。最近では学生パワーを注入して貰っているが、総会への参加者が激減している復活再興を図らねばならない状況である。これは筆者（永野）が支部をお預かりしていた頃の土壌改良が芳しくなかったことによるものと思つている。大阪関西万博の盛り上がりにも共鳴して同窓会地盤ともども飛翔したいものである。
結語としてこんなしよほくれた話をする。それは正反対の物凄く嬉しくしかも誇りに思う「人財」の多士済々であること。土佐高の最大の誇りにさせて貰える「人財」の宝庫である母校を本当に誇りに思う。34回生尾池和夫氏はその最たる傑出された同窓生であると思う。南海トラフ地震への警鐘ほか世界的な存在であることは今更言



2020 関西支部総会

をまたないが、誇りに思う。他の支部にも同様に多くの「人財」が大地に根を下ろされていることは正に「土佐中高」万歳であると思う。

広島支部

広島支部は、昭和62年に広島高等検察庁検事長として竹村照雄氏（20回生）が広島に赴任された時から始まります。
竹村照雄氏が、当時広島高知県人会の世話をされていた四国銀行広島支店の松本伸氏（45回生）の仲介で、岡村進介（30回生）、温泉川梅代（40回生）両氏と出合い、意気投合し土佐中・高同窓会広島支部の立上げを計画しました。何度かの会合を重ねた後、平成元年1月第1回広島支部総会を広島市内で開催することとなりました。初回の参加者は40名程度。
以降、年1回広島支部総会を開催し

同窓会の歩み

現在に至っております。
 広島大学の移転、企業の広島支店廃止等により、現在、当初に比べ参加者数は30名程度と減少傾向であります。
 尚、竹村照雄氏は第1回広島支部総会開催直後の平成元年4月に定年退官され、東京に戻り弁護士になられ、平成27年10月にご逝去されるまで、名誉会員として広島支部の発展にご尽力いただきました。



2019 広島支部総会

香川支部

香川支部の前身は、昭和50年に発足した四国電力向陽会であり、当時は20名程度の一企業内の集いであった。その後、母校や四国銀行の協力を得て、現在の香川支部として正式に発足したのが平成8年のこと。初代支部長には、香川大学法学部の土田哲也教授(32回生)を迎え、総会の開催日も7月第一土曜日に固定し、その名も一年に一度の再会を願って「七夕総

会」と命名してスタートした。3年後の平成11年には、会報「かけはし」を発刊。手作りで質素な会報誌ではあるが、若手事務局員の協力により、現在も近況報告に役立っている。
 香川支部は、転勤族が多い支部でありながら、その後、会員数も増加し、最近では200名程度の会員数を抱えている。このうち40名ほどの会員が、毎年サンポート高松のシンボルタワーに集まり、講演会も特別な催し物もない、ただの飲み会ではあるが、お互いの一年を振り返りながら楽しい時間を過ごしている。



2019 香川支部総会

徳島支部

- ◆平成28年3月19日 徳島県内の同窓生で「校友会」を発足
- ◆同年3月23日 選抜高校野球大会の応援参加
- ◆同年4月 校友会の会則等を正式決定
- ◆同年8月4日 校友会ビアパーティー開催

- ◆平成29年8月12日 同窓会本部総会において「徳島支部」として正式承認
- ◆同年9月16日 第1回徳島支部総会および懇親会開催

・開催場所
 徳島ワシントンホテルプラザ2階

- ◆平成30年8月18日

同窓会本部総会に参加

- ◆同年9月16日

第2回徳島支部総会および懇親会開催

・開催場所

徳島ワシントンホテルプラザ2階

その他、各支部の総会へ出席

- ◆令和元年8月17日

同窓会本部総会に参加

- ◆同年9月14日

第3回徳島支部総会および懇親会開催

・開催場所

徳島ワシントンホテルプラザ2階



2019 徳島支部総会

母校／同窓会本部／各支部

土佐中学・高等学校 事務	千頭裕	〒780-8014	高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL)	088-833-4394	(FAX)	088-833-7373
(E-mail)	tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosa.ed.jp		
土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事	千頭裕	〒780-8014	高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL)	088-833-4394	(FAX)	088-833-7373
(E-mail)	tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosaobog.com/		
同窓会北海道支部 事務局長	山本隆昭	〒001-0018	札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
(TEL)	011-756-2817	(FAX)	011-756-2817
(E-mail)	yamata@den.hokudai.ac.jp		
同窓会関東支部 事務局長	浦田理有	〒104-0061	東京都中央区銀座2-14-1 森山ビル4階 中央銀座法律事務所
(TEL)	03-5565-1315	(FAX)	03-5565-1316
(E-mail)	m.urata@chuoginza-law.jp (HP) http://www.tosako-kanto.org/		
同窓会東海支部 事務局長	瀬沼憲司	〒455-0064	名古屋港区本宮町6-7-5 フォレスト本宮602
(TEL)	052-837-5834	(E-mail)	knzss@kza.biglobe.ne.jp (HP) http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/
同窓会関西支部 事務局長	藤原由親	〒541-0046	大阪府中央区平野町1丁目7番1号 堺筋高橋ビル6F 税理士法人アクセス 気付
(TEL)	080-9166-2400	(FAX)	06-6110-5419
(E-mail)	y-fujiwara@act-cess.jp		
同窓会広島支部 事務局長	大谷準一	〒734-0007	広島県広島市南区皆実町6-3-26-902
(TEL)	082-253-5759	(FAX)	082-254-7523
(E-mail)	spat56z9@vesta.ocn.ne.jp (HP) http://tosa-hiroshima.xii.jp/		
同窓会香川支部 事務局長	野村喜久	(担当=福原俊介)	〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
(TEL)	090-7780-3722	(E-mail)	fukuhara14443@yonden.co.jp
同窓会徳島支部 事務局長	菊池 義倫	(担当=岡林将史)	〒770-0841 徳島市八百屋町3丁目10-2 四国銀行徳島営業部
(TEL)	088-622-4141	(FAX)	088-623-6676
(E-mail)	starevue0814@icloud.com		